

早稲田大学 教育学部 地学 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	地質・地史分野からの出題。天文分野からの「火星のクレーター」についての出題があったのが目新しい。大問が7題と多かった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	岩石・鉱物	火成岩の花崗岩と変成岩の大理石について、その造岩鉱物の性質などを問う問題。	易
II	地震と火山	地震と火山について出題することで、地球の構造の理解を問う問題。火星のクレーターについての小問あり。	易
III	海洋	海底地形の性質を問う問題。細かい知識が必要。	標準
IV	海洋	海進・海退について、その原因を問う問題。	標準
V	地質	地層の対比を問う問題。示準化石とかぎ層の知識が問われた。	標準
VI	地史・化石	始祖鳥から始まって、恐竜に至るまでの鳥類の進化を問う問題。	標準
VII	地質図	地質情報に基づいて地質断面積の作成。情報を正確にかむ力が求められる。	難

〔総合コメント〕

<p>例年どおりの地質・地史分野からの出題が多かった。この分野については十分な学習が望まれる。VIIの作図はかなり時間が掛かるので、その他の答えやすいものから解答するとよい。火星のクレーターについての出題や、鳥類が進化して恐竜になったというような出題内容から分かるように、普段からテレビや新聞などに注意して地学関連の知識を蓄えておく必要がある。</p>
--